

「さながら此処も金の嶺の、
光も輝く千本の桜、
栄ゆく春こそ久しけれ(嵐山)」

「老木も若緑、立つや若竹の、
親子の睦み、または兄弟、
彼と云い此と云い、
何れも何れも睦ましく、
親子兄弟と栄うる事も
これ幸行を守り給ふ(春栄)」

新年にふさわしい謡曲の一節です。

老松の絵の他は無背景、無装置の能楽堂の舞台で演じられる能は、常に観客に想像をうながし錯覚を起こさせます。観る人の感覚と舞台上の演技がうまく合致した時に、大きな感動が胸を打ちます。平成元年秋、発足した「芦屋能・狂言鑑賞の会」は震災二年後多くの能楽ファンの声に応え、平成九年「芦屋復興祈願能」



能「屋島」大事/長山禮三郎氏(中央)
平成17年「芦屋能・狂言鑑賞の会」
(ルナ・ホール)より

として超満員の観客のもとで再開できました。能は創始者、観阿弥・世阿弥という室町期の天才作家が創った仮面歌舞劇で六百数十年経った今に息づけるのは、内容の豊かさや文章の美しさ、能装束の華麗さ、気迫に満ちた囃子の音色等の魅力があり、日常を離れた優雅な時空間が、緑豊かで静閑な街並みを、我が町「芦屋」として愛し育ててきた市民

に共感を呼び、晩秋のルナ・ホールの風物詩として定着してまいりました。能は神、天上人、主に源平の武将、幽玄の世界の美女、演劇性の高い母物や現在物、異次元の鬼畜物等、五番立の種別に分かれ観世流では約二百十曲あり、芦屋に縁のある鶴、求塚、業平者など数曲あります。現在観世流では座曲となつていますが、「藤栄」も、月若町の豪族の家にまつわる劇的な作品で

「芦屋の人」

新春メッセージ

明けましておめでとうございます。昨年は、僕にとって十回目のチャレンジとなる東回り単独世界一周から戻り、秋には「芦屋市民文化賞」をいただくなど、私にとって一つの節目となる年であったと思います。

私は大阪生まれの大阪育ちですが、関大の第一高等学校に入学し、同校ヨット部に入部して以来、芦屋との関わりが続いています。

高校時代のメインの練習場は西宮でしたが、ハーバーから出ればすぐに芦屋沖であつたわけで、私にとって芦屋は青春時代からの懐かしい場所でもあります。私は、そんな思い出の場所であるシーサイドタウンに一九八〇年以來住んでいます。今でもよく西宮の住民だと間違われることがあります。西宮市にはたったの一日も住んだことがないのにね。

一九八〇年といえば、北極を通る縦回り世界一周に、三度目の航海をしていた年で、これを加えれば、芦屋からの航海は、その後七・五回続けてきたこととなります。震災のときも芦屋にいました。自

宅は二十九階にありますので、揺れも大きく家具なども転倒しましたが、最低限の安全を確認した途端、西宮のハーバーに泊めてあるヨットが無事かどうかと気になり、やがら双眼鏡で見ると、私のヨットの帆柱がすくくと立っていたので「やれやれ」と胸をなでおろした思いがあります。また、ヨット仲間が心配してくれ、モーターボートで宮川河口まで救援物資を届けてくれたり、そのモーターボートで大阪へ買い物に出かけたりでき、ヨット仲間のありがたさもさることながら、シーサイドタウンという立地に住んでいて大変ラッキーだと思えました。

それにして、私がチャレンジした一九六二年の初航海では、六分儀で太陽や星を計測しながら自分の位置を確認し、航海中の情報源であるラジオを聞きしかありませんでしたが、一九八五年以降にはGPSで航海できるようになり、また昨年の航海では兵庫県ほかの六小学校の生徒たちとインターネッ卜でのメール通信もできるようになりました。メールで小学生が質問してくるのは、私が何を食べているかと、

珍しい生き物に出会ったかとか、過去の航海と今回の航海とどこが違うのかとか、いろいろでした。明石の小学校では、私が見ている南太平洋の星空と同じ空をプラネタリウムで映し出しているらしく、「同じ星が見えていますか」なんていう質問もありました。でもね、南半球というのは北極星が見えませんが、星の位置を確認するのはとても難しいものです。昨年の航海は東回りでもあり、追い風にも乗れるので航行距離は長くて時間も一カ月ほど短くてすみ、向い風の西回りに比べるとこれまでで最もスムーズな航海でした。それでも、やはり南米の南端は西風が強く、難所といわれるところで気はぬけません。私が航海を計画するときには、いつも設計から始めるのですが、やはり西回りより東回りでは準備するものも違います。体力的に最も困難だったの

す。有名な歌人在原業平・行平の父は阿保親王で、親王塚古墳が当地にあり、また市内には業平町をはじめ、公光町、親王塚町、月若町、打出小槌町等、中世を感じさせる由緒ある縁起のよい町名があり、謡曲にも出てまいります。古来より芦屋人は、山、川、海と恵まれた環境の中で、歴史を大切に生きてきたのでしよう。

二〇〇二年、ユネスコの第一回世界遺産に認定された「能楽」は古典演劇ですが、その伝統を守りながらも、常にその時代にあつた新鮮な感性を持ち、観る人に魅力と感動を呼び起こす芦屋能として、世阿弥の言葉「衆人愛敬」の心を大切に今後も優れた一流演者を迎え、広く一般のかたがたに能・狂言の世界を楽しんでいただきたく努力してまいります。

今年の御題「笑み」——
「一度にとつと、手を打ち笑つて三笑の昔と、なりにけり」(三笑) 新しき年の幕開け、皆さま健康で、

明るく笑顔で過ごせる一年でありますよう、千秋萬成を祝し——(枕穂重) 歳を延ぶる めでたさよ(枕穂重) 長山禮三郎ながやまれいざぶろう氏 観世流能楽師。昭和十八年一月、東京新宿区生まれ。祖父、父、伯父とも能楽師シテ方。昭和三十年、十二歳で先代観世喜之師の内弟子入門。十二年間修業後独立。以後、故八世観世鏡之丞師に三十二年間芸事指導を受け、今日に至る。

昭和四十九年より毎年「能・狂言鑑賞の会」自主公演(能楽堂)を主宰。昭和五十一年「世阿弥座」を組み、ヨーロッパ五カ国での公演に参加。昭和六十一年、重要無形文化財(指定)保持者に認定される。

昭和五十七年・平成三年・同七年と、三度、大阪文化祭本賞を受賞。平成十七年、芦屋市民文化賞を受賞。東西の舞台活動と素人会員の指導にあたり、現在に至る。三条南町在住。

新春メッセージ

は、私が五〇歳代だった一九九三年に百十一日間をかけハワイから沖縄までを足漕ぎボートでチャレンジした単独太平洋横断ですが、西回りの単独無寄航横断は日本人ではほかに誰もやっていません。それ位、西回りの単独無寄

港世界一周の方が難度が高いといえます。今後、より高い目標のチャレンジは続けていきますが、私の人生を振り返つてもチャレンジはいつもうまくいくとは限りません。しかし、チャレンジすることによって、そのたびに実にいるんなものが見えてくるのです。私は生涯をかけて、チャレンジすることの素晴らしさを実感し続けたいと願っています。

堀江謙一(ほりえ けんいち)氏 海洋冒険家。昭和十三年生まれ。昭和三十七年に単独無寄港太平洋横断に成功。その後、西回りや縦回り単独無寄港世界一周など数々の偉業を成し遂げる。また平成十七年には六十六歳で東回り単独無寄港世界一周を達成、世界で二人目の東西両回りの単独無寄港世界一周という快挙を達成。これらの偉業は、国内にとどまらず世界の青少年に夢と感動を与え、海洋スポーツの普及に大きく貢献。高浜町在住。平成十七年「芦屋市民文化賞」受賞。



新西宮ヨットハーバーで/堀江謙一氏 撮影・桑田敬二(ハナヤ勤兵衛)

進捗状況のお知らせ

精道小学校第2期工事(普通教室棟)に着手しました

問い合わせ 教育委員会施設課 ☎38-2086

1期・特別教室棟の工事は、当初の予定どおり昨年11月20日に完成、別棟は10月22日に完成し、それぞれ引っ越しを完了しました。2期工事(普通教室棟)については、昨年の11月24日に旧校舎の解体に着手しています。今後の予定では、1月21日までに解体を終え、9月中旬には普通教室棟を完成させることになっています。アスベストについては、2期工事範囲に非飛散性アスベスト含有建材(ビニール床タイル、石綿スレート)がありましたので、国の処理基準等に従い、12月3日(土)・4日(日)の学校休業日に撤去しました。



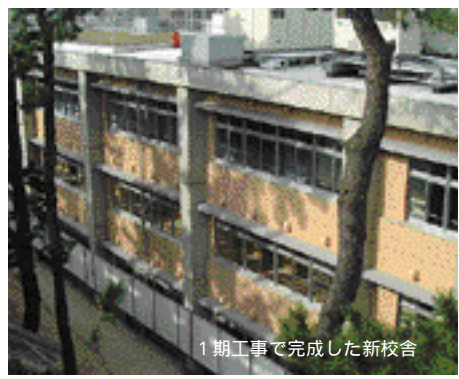
完成新校舎内の特別教室・理科室



完成新校舎内の特別教室・家庭科室



1期工事で完成した新校舎・別棟



1期工事で完成した新校舎